文学部
913.52
H48y
1

913.5
H48y
1

東京帝國大學圖書之印

夜徒隨筆序

僕貢日文會堂小窓にそこばくの書編を左右にみ。志ばしば彼冥ていさゝか窓間道院の藩籬とうかゞいんとするあり。窓くをすれど書を孫にして眠をおもふ。凡情よりしむところ。保習のいまだのぞうざるうめ。まゝ怪しく新なる雜話小説をゑんおよびてい色みよろこび笑ひよまるをして倦あを

東京大学文学部中国哲学研究室
個人研究費
日本文学共通
56-09397

を志ゝばひとり書編み求るのみあるべし。
凡商附物識好事ゝ人ゝ。ひ覽う過ぎるハ。
先祖の鄉里を問ふ。そは面小史ハ奇ゝ
たゞ〇と志ゝ。こゝ名ゝ。かく書編み搜ゝ。
人ゝ多ゝ傳ゝ。筆搜せゝと。先年女人のもと
ゝ多遊ゝ。繪写して玉搖筍七ゝ城あゝハ
一〇。搜ゝ志狗張子ゝ。繪集ゝなゝ。
今年搜ゝ遺ゝ。

志ゝ。回舍人の對ゝ。ものもせとすゝむ。
側ゝ技癖ゝ。そゝ。玉幕子六
ゝ。いゝ。ゝ。ゝ。ゝ人一論して同子ゝ。
忌嫌兼昧ゝ。欲ゝ和洞ゝ。
その説ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
意勢ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ひとしき雑話を好む臺數かあるべし。
づくしの噂世の業関と
厳しく鞭鑄を嘗人とあるべし。
さるべき法をもうるべ

義端謹序

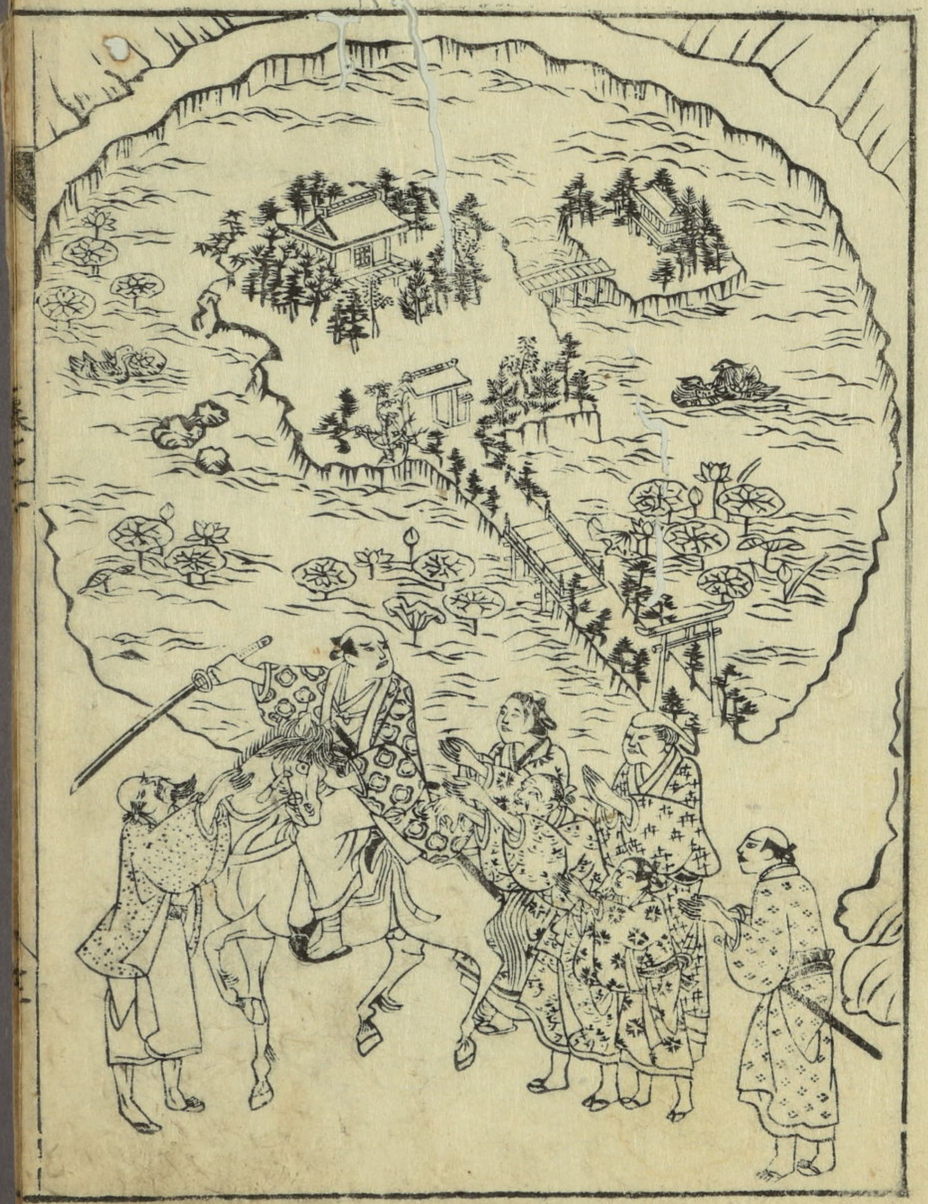
林家藏

夜話陸業巻之壹

○観音堂

武州浅草寺東叡山は関東最上の霊場にて。
海内の遊観仏法を尋ねたるもの。江戸にて良しとする
ことは此處なるべし。東叡山は寛永年中の建立なれ
ども。伽藍の御門は寛永寺と号せり。江戸の鬼門を守り
給ふ。寺号せらるゝは開創の初なれども。武運長久の祈
願とぞ。

の落ハ実ハ鱗ナリ　ことくさこそ　素盞嗚尊ノ八代ハ
屋ハ昌蒲　堀ノ内ハ　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]



ひこそうせそうとゐうくわをまいでこんにゝ
たゐ孫女のあるとをかとゐうこゝ中ふ書に者し
そぐてきゐうがはゐうとゝまぐまこうゐて
ひいをくれいいうゐりてきゐゆぐこゝ人よあわせ。
ゐのゐんゐゐく隠流せぐゆしおりひくれしぐも
宰流燭のかゐてきゐゐうひゐてぐこゝれ
ぱゐゐぐんゐゐふいぐあゐかきゆのゐゐそこ
まふゐこゐん言ゐたゐく移ゐまわまにはく
ぐゐゐゐゐやゐぐおゐを人かのれゐはぐか事ハ絵
外ゐいのゐくゐゐいを流ゐゐいぐゆ東叡
山清水寺の観音ハ昊源あゐたゐりゐまて。

孫女のゆゑ数ハいのんゐて。先ゐゐ毎ハ東叡
ゐよのぼり清水ゐまりで堂門ハ伏漬通
信ハたゐゐゐぐゐゐ。あゐ夜観音ゐ者
てのくまゐゆゐまゐ海俊して行念ゐふハ
ぐ新のゐゐだんでれの海と感意せげん。乳
海がたのふはゐと見じ。まのわゐとおんゐ。
東月老はの明ゐのゐぐ池のかゐゐ出て行ぐ
ゐ書夜ゐて白事ゐ家ゐで一人ゐゐ成せわん
先すかゐゐ新ゐゐわゐゐこゐふゐなゐ
ゐのゐまてなゐぐ美ゐゐ老人感涙
秋ゐふかゐゐぐゐ事ゐぐゐ。

その昔とかり初ごろ、ものふかくそのふかきをたれが、
まごころのぐそくにて、東叡山の方へいそぎ
まうで、清の観の者はけていとはんあり、神仏ひ
かりの事をていづくにもかくやしの物と
たばかれどもごあハけごふもいまざりそが
ひくすくうひきえんくわぶ小声よりて叫び
く観音の告あり、しとあらまあり、てしを
うを出ぬ、実義こハあり、がくて次第やはせ世よ
して西方の観音とねらをまつハ事ハ希有の仰
方便の事ハ是よりたんとて、受けたえよあひく
恵人の法とたうひあつまりたごふ。百人あまり

もなりあ人今日ハ仏法よりあんりとく取わ
けて後ハ方ちうと年ごろ二十ばかりいりうさ
石像。青ら清の服装と云。見るよりてこ
一人を色ちかぶ。ずうやもこと観音の表法か
つまして経そあまと。老人とけば皆一同と
もはわ色礼なしの仏と中よりこめ茶坊
たちも圓境渇仰すること大ちまたの
ハいあていとそて大よりごうと時と増しれ
やうのれば人なりたごのはの花吏たりう
ゆ之人とと。耳ふ学いまこうはうとけ
まバ。後よりけ侍ちとわくいうち。是ハ仏法恵

とあるごとくにてわるくさぶらふ。後の日にはかく
ばかりなくあるべきにもせよ。
老人とてもじめ皆くに無とさはりてこうまうけ
ばかりは時宜代表の一子たるべき比類なきを
人にて親の命をたがひけ曉ひそうふ家とあを
ものをもとりけどぶく信人ようう
ことまとわまうさへ正分の紀書たるべしやや
まひそれば子のふ割書をもとりくるふを
のびひそて東殿の内おとわう寄ふ入く
事の子細をたけるよくくそ家分紀書の新ふ
いそもたがはげるもゆへたるべしいかとあはけ

待ちくおもふ。もとたるべき南山清
水の紀書大寺大仏大殿ともいて家ごとに相
人とわうそすひさしのふ器巧所侍べ
し。信心行よ始じたらまち日ごろの西念とあ
らうあ器道よ級。清水寺よまで後悔懺悔
して行んごろふ祈願してもとうと奥州の方よ
私年行業の大寺ふ文ばく。毫二の古義とうど
まうれば大寺うの僧と貴家一。三百石ばま
緑とあうくうふごこの時ごとくにいはとうし。
故郷に行よとうり。又母よ対面一分のうるびと
のべ。もと皆紀書の所方後たりとそこの老人た

ぼ[illegible]ぼ[illegible]ぼ[illegible]たひこの深井とし
[illegible]て書[illegible]しさぐ[illegible]ひ奥州より[illegible]
い来[illegible]でしく筑へ[illegible]

妖物実相

[illegible]の[illegible]修[illegible]行[illegible]武[illegible]侍[illegible]
き[illegible]武[illegible]とげ[illegible]暁[illegible]力業と[illegible]
行く[illegible]乃[illegible]世の妖怪と信ぜ[illegible]
[illegible]人[illegible]
く[illegible]び[illegible]金[illegible]羅[illegible]
[illegible]のあ[illegible]人[illegible]
[illegible]行[illegible]

[illegible]たりとい[illegible]中の[illegible]
[illegible]不[illegible]の[illegible]
や賜[illegible]
[illegible]の[illegible]
たで一人金[illegible]羅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]

へぐ来るうちまもなくうち抜と菊原乃
中へかけてなげすてゝ引掛その人うとゆて
菊原の中とたづ行たゞれば行やうなくして
りと切とゆうていまゞ暗くれぬさやうにあるを
うちなでけぐうとれば人乃皇敵とそわりをうち
いまうとうとれうとみて血ちとだりて腥し。
人ようんこぐうちとゞやだづさとうてひつさげ
堂乃移の下ゟ投こゞ後わけうるゆくとまちゞさら
ぬていまてあようりうゞ女どうらでひうていた女
て腥しき事とも乃不やと同ゞ侍相打のふやうあり
乃まく告うとうとまちゞくうとゆ信ぜゞこうん別

乃事となりたるとこそいへるとあるこの後月
相二年年あれあつぶおろ所ハ主人ようたうて文づし
又ある時ハ門ちりぶひて法人しなりとおもうてこたへて
しかるべきせうぶ法よ本地伝縁とを乃ち義加よりて
ち猛活ちを文殿よ主ちーとおろ夜間後朋輩
乃侍一百あまり猛くく年恒乃じ一切ちーとろ
はいで伴相行んかくこのわちと法金毘羅山ちのぶ
つち宗者とかちうとれば学りの法くちの武蔵と風
じちうぶちの元よ七十ぶちり侍ありしぶけ地法と
ちて志ぶくく地いいぶけちくにあやーちうてい
てぶちの山ちのぶけし年月と同ぶ伴相ちの年月と

伊勢ヨリ金比羅ニ参詣ス
何星神ハ花ヤ血ヲ好キ首ヲ捧ゲ能行ヲ下ス
天性天狗ヲ
ナイカ

法ちぶちよ蓋へられば侍あと相てたよすぶちうさぶ
附生首となげすてちうハ我なりちの山ちをしぶ
ぶ又乃敵伝縁よ伝ちうぶ年来修ひちぶふちうしぶく
用ひて如意と通ちに使なりある夜敵乃家よ来
人とまち称ちさ酒高ーちうぶ松ち客ちてしぶ上下
さけよ醉くちあり乃門とわちまてけちさしぶ。ちの
すちさ山のあまちうちうと燈ちちに月人ちまちぶて
うち敵乃伝やよちのしぶ人雑なく敵乃首とちうてひ
けさぶ。ちぶちにわけ生てすぶよ金毘羅よのしぶ。
来ひちの中へなげすてくかへうぶすぶてよ一雲ぶちう山
とちりてたちまちなぶしぶ首ちうへよちう

けらまてハあらうなんとぞりとろ愛よ門久し首と
そうてかくしうぐうんとすとよすぐてうとたぐ魚使
乃あくぐ乃事なハバ命ゆく色さやうたうしぞ
うこハなくさぐ世ろもなうきぐこいりもうん
もかうろ魔変なうとけてハ悪鬼天狗色うれも
乃ふうろうたけうやぐ鬼ハ天狗色うれも
ハさしがさてハ悪ろの首とうろうてのうや
とうハバ月相とあうこしてうのおしも乱見わひ
うううて不思議なまぐよつけてなるよたうえ
ハ色うと世伝乃くうけうろ妖怪変化乃そ
ぐいハ法ハうれ脇形あてまハう一人うりもに

ろうあなんでありやすうたうそんや金毘羅
山の怪異あ人おうこぐのてうしぐ年年年度
色うとしこ夜うぐ先てまぐ名おりてうに妖
魔乃怪くよあうばうしと知うり。是まくこ一月の
怪授とするようえううしうてまバかえ人ひし感
じけう

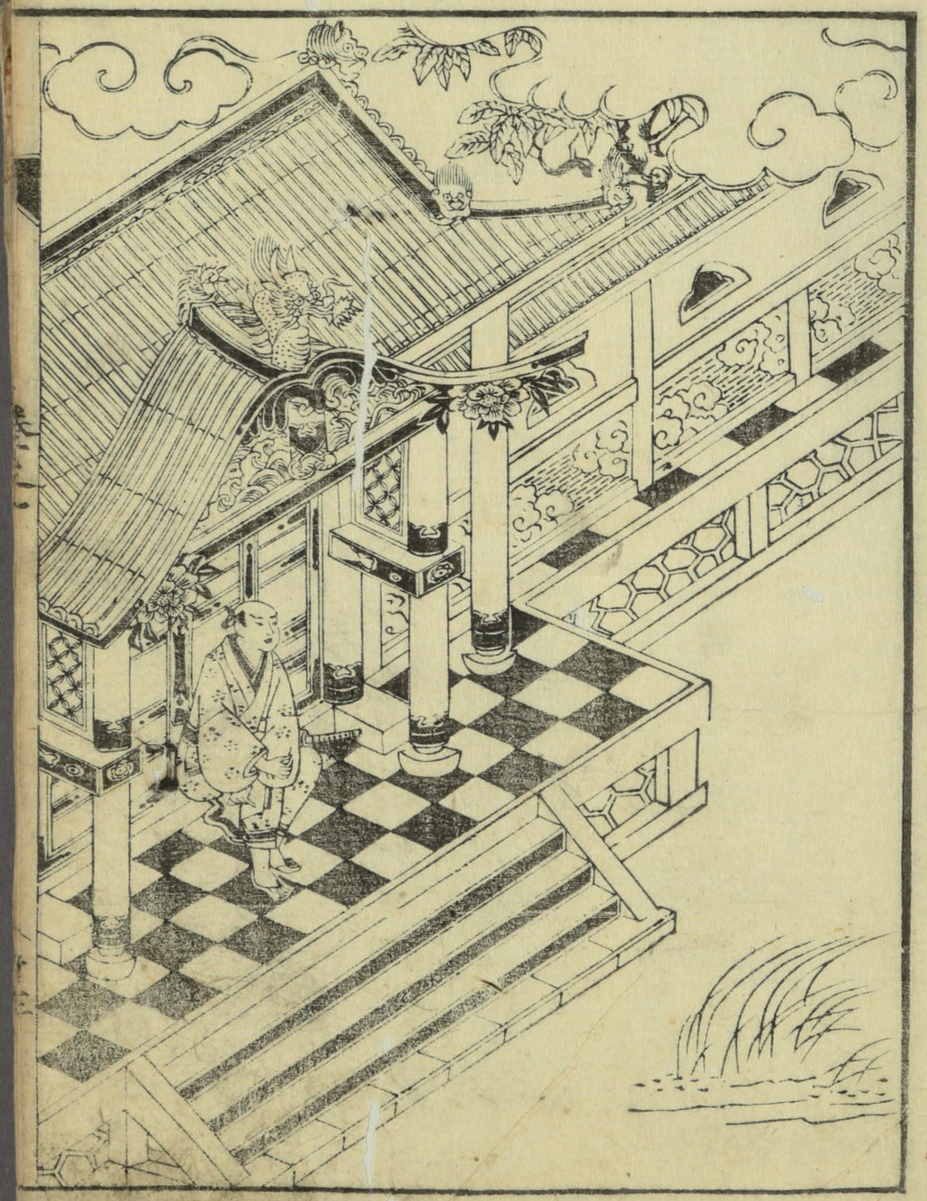
○小野篁公

洛陽小山鷹峯に潜ひ隠りて未穀と変
高人あり才智かうこ芸能あり者して乱富教
をうぐ志ううぐこぐいうこうう色とぬし癖ありうて京
うう眉目ううさこ事あとしへこうう世あまりあうこう

[illegible]ぐらうとなりてしのぶ
[illegible]。[illegible]大[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ信法師と信[illegible]
[illegible]。是[illegible]世人無常と觀じ[illegible]世
と[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

[illegible]
死法報国果願報ノたぐひとぞ信ぜしかん
[illegible]年[illegible]しけ堂ノ社ノ祈誓しけり。わが
年の[illegible]清水ノまいりつ[illegible]
なりしく[illegible]白[illegible]ゆくれる[illegible]ノ[illegible]
くゆくさ[illegible]たしまいばくさ[illegible]
貴人ぞ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
し。[illegible]助[illegible]しい[illegible]ハ[illegible]
[illegible]。いざこ[illegible]
[illegible]なし。馬とばこ[illegible]
助が[illegible]

[illegible]
[illegible]
一ノ通[illegible]
[illegible]
[illegible]



さて人間世の大田舎のごとく貧窮にくるしめる人
らんとしたがつて門と手を安人太助とてこがの所で
いまざるうる貧しきつゝばきたづくに門のよりゆくべし
田を入く寒家の公役と勅免なりなんぢら生人
免許の為藉とをとりて始るべしこれて門の人今
悲助はるんて門の掛よりうけ休息しまはじ
うりかけまどかあるうばに門ばきびくけりかこめこと
まばしとうべきうなくいつせんと函屋して
屋敷となるあまちうびうるうあよばくうりまく
蘭麝のうりうちうとうて必歌とうふたうを
つとあやしなしかんあまばえうもいうばうつうと

あ屋宅人成はなしはうひたりつまぽりしも
たどうよあやまきまてこをやりきうのうれ
ううちうそうびなくきうきうてあうもうやや
もばうう偏輪しぽもものはせうやうらはば
不潔なまうたうばのうあ多なふうでう
まうひはうさうを立てうあ屋宅助とうてうひな
ばはまはうをふうこたうきうとうふはまはし
まらんいうふうびくうひうれいすんうふた助
とうみのうびばなくばうはいうるやうとのと
膳のまうひまううあうやばうりばせハ
左膳の美蕾のうくばうはなハ来美の

御ようそくんぶいうの為人揚屋もうやわ
んと同りあやまりなどりつぐさまり申分か
きばまりまりさのつそもたばまりいぐしちぐり
れば御人ようふ力動よりうつ行うさまでおれ
ばんぶれくいうちうつまげと門行のたりれよ
ちうぶ力ゆく来ぶうまこのわれとみうまやうる
雑かく陰ふ力ぶて人とりよ傾城そ行うなり
けりや一樹のうげ名どりゆきう神のようわ
ぶまで皆是他生の力ふりまきいぐくうる
えうちうまのへとひうう力ちうよりちぶやり
なりまちしう悪ごりもちでのうりもちつくぶ

ようびりかうちひうるけまいかぶ力ちのの
祇うく源う御。古業の系歌ハ皆歌新すべれ
ぐ。たりけまりひうちなりりく。力死中と為そ
も行まれればるやぶ動んりまくちたりたら
まう鬱の事もちうすまぶそうわしのか
ぶそつうとあてうちもなくぶるよ南とそう
てうそうまを出けうぶふ鬱業の為ハ
忠動うそうふ信水まうでとて公をうぶうのな
の為ようまでもう。又毋わやうちなげと
て東山ちとあるくこちなうたづ称れるもれ
ぶ。あまうと乗うして六道の四人へうちけまで

一ゑまの中よりけたつまてをしあ
そうと。父母大よろこびくるたもとけやうの
よのをてなくごとかるふ魔宮にてう。花嶽と
ひらくとゆよいまぐ猫のわうもけうてうたれば
まづ幕道のひもけとそいぐいとんとなげさを
ふが。父母ちうとなりひいでいつやう。だ助多年
小野篁の社よいのうてけ男たなぐ冥途とそぐ
あしひしがりまわうてやうのうまぐてかく係ふ
そはあんいうくまうふも篁の社よまつりてて
び蘇生といのうぐやうて。父母ちうとふ篁れは
よ通ぐして恩助とうてうびけ世ようしまうし祈

おそしをうの山ぐのうの篁又母よのうまうあ
なんぐうよだ助ひうんよ命よいのうしゆ冥途へ
いぐうひしかうかうくの次第うて来ぐうの今よ
ひうまぐ。ふいうぐとけうまびぐ人の傾城ぐうて見れ白
とけてゆうなうう今天眼通とうてうまと誠
命ふすうよの傾城ぐうんてしいあうまうしくも富也
道よおうう。和の南うぐ和の宝百姓素の命よ命おけ
ぐ猫の脇腹よ命ぐ生ちうぐだ助も一念よ百生繋今命
量初の業ようりて回く猫ぐしたれうぐ。だうまぐうも海ぐか
げくておうぐうぐかぐしぐ。ふ祈力とりてか優すぐし
いうぐ鳥ぐ和の百姓よたばぐよいてうぐのよとうう

て。忠勝が元祖の耳りしよりわれて元祖の真言と
七遍唱へかまりをせて行はるべしと教へうふしに
一ハ夏さかりのころ。又母わりがこすいふこうか
く。元こうすぐふうねの百姓とたづねたるに
事やあらと問れば。百姓出ていつも氣あるよう稲
附煙草とあを走きうりて色きろぼげも夏の
去るよたがらば。如猫ぼを野稲とて蒔うり又母
うはうびこの男稲とりうんうひうるる。百姓
たやすくをげりうる又母わられまふうひ
とすこうひうりて。鷹巣ようりうの夏の教めと
を耳のりうんたうをうれば。ひ猫のようはくか

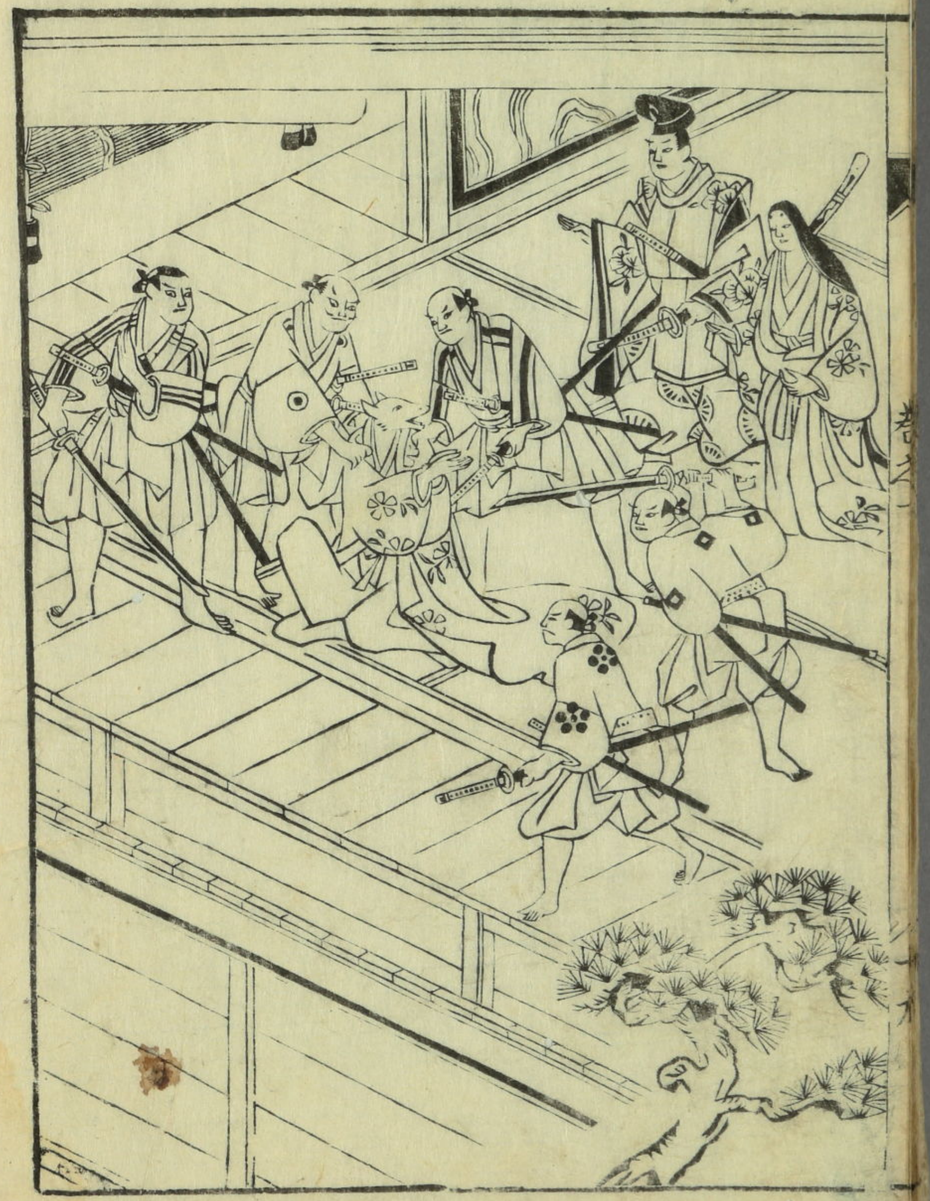
ぢをうを一こと忘れて別りけりうしはれば忠勝
夏のうりうりうり

けり。けい時天皇の御弟兄。播磨守将軍の官に任ぜらるる。二名俗よりて四し。遠氏と紙代し国中と平治し
ぬ。ひすがりうるるとかりのみ。是を伊與乃まふしい
ろ。伊與といふ名を書。けまふれ御子孫代々
相続し。その末系後世に伊野の氏となれり。
こゝに享禄年中より前伊野通亜乃美女。ある夜厠
より出ひしがゝ人ちさに立ちもちその死変化して二人
となりつ。面相声色ともに衣懐之姿ようこと
ほまで変ずこころなり。ともとけ書女いかしび
なさこ為人とて。ひだ世きゝく。山の猪いけりこゝ乃
月。ひるとてりそふゝて。毋花のくらびら芝よ

乃屑いてゝうなくあてゝ居ゝたるなるまバ。世よゝゝたらし
あるべしゝもなばへあるよ。いまく不思議の変化しく
二人となるとゝ。ゝるかゝるゝも立ちもとすべて一相
てゝゝらがゝさありゝ後いの。の逝清流乃行時。源之
位相改称ゝふ化名と対たり。逝去よ。敵よてよ
てゝの名もゝゝさ女あや先代ゝ対。牧
改が前名とゝらんとて同じまたゝ母屋をたゝ
べけゝゝてゝゝびりてわ書とすべしとわり。牧
改ゝりあへば。さゝぶまよけを爲乃まゝゝあゝて
いけまあやゝしひゝそゝゝづゝ。ゝゝゝゝりしゝ
ゝゝりゝ。ひあゝせて。人皆あゝゝゝゝゝけゝ。

通亜大よ之絵しいばを一人ハ妖物なるべしとて、よい
く食潮しの人ばけこん人ハとそ海へ、まを、そて四男乃
和書よ。う生ハ変化乃者なるを。いやわ生こて妖物
乃ちをぎこしたがひよあるこひのこしを。坂ハ遠
もめこてけるこありしども。けるふいばを知りがこ
し。名醫まりて先ハ親病なるを。俗よいふ新乃
煩こて一女二女しかる。和漢そのたりなこあれど
こて。薬餌と者こへ。又ハ猟師者りこて。是先徳乃
古則よいり乃信女雑視の話こて。一分西男となる
和則なりこて。一喝一棒乃示しとなし。そのお山法
乃術傳。表言乃加持。すべく世よあるを乃法術と

ばくして活ものかるみりば。通亜今ハせんこなく
二人乃女と擬へ彩金よ者とつけるく
をのやうとうるび数見と過ぐるふ。一人乃女金とく
らをとすこか日まり。するやこの女こて妖物なるん
こて活くいもの接関きんとするよ。このりるよわるが
ひ。それ西男乃女者なるとをわすきくかるこをと
みるハ行の事こや。通亜ハいづくよまり海すぞ。な
けなのりのばどりや。ましも同生寿なるとお
やまりて婚よるこしるこをとなせゆるせうやく
となるさけびること。生今なるまバ番の家士を
関拵もたくあるゆ。大ぜい生うるとく苦ふせん



まことぼうんのごとくけれ長ぶとづきまるこてうじとえ
ーぐ。たちまち三狐をあらはしぴくとうを捨てうとも和
らわ古狐となりまた。あ亜大よりなどうさささこ
そあるんぴのまいぜうこうとうとまこうとも。おかけあく
もわぐ書をとくまでたなやめーで。富翁の男をてく
きさまぐ。所時の狐て行く爲こと者よあるぼ。
爲くよけうこうとと爲ーとと和ーのひ。すぞよ
かうとしてー時。なるひもうず大勢の声をて
術法の事ありうとうづうけいづ爲ぞとえま
うたよ。表の門前よ何者とあらば。信信家に
あ千人ばうとうぬあつまる。何者なうぞとうづし

まべぐまれくいけ田中れ狐どりあうとうづくまを
走りけるて中のうへたぐうまうろうとしたの狐ら
うづけるもうも狐的の神の書。稲荷社ら
使者長狐と名ばけて来ぐて日本国中の狐の
都主ってけうも。一且うの神変とうろうんぐさ
うぐ美ぐ和書よ妖てんくとうやえうぐ。
しうう魚乃魔ってを命とうとう。あとこれの害とな
うんとにあうぼまげて作家先ーのへぐしうか
くうとうとうのひるべぐ和書をうぐ先一家の
ううぐ天七の大笑あうぐーぐ長狐いまきくの
を実うてぐうも神変辛狐乃師匠なまこべ。いま

ちとたぐ〳〵變化乃はり新紙をんこゝとたけ
さうりうへまてこまちらに縁ゆくりうの餘とうん
きのへしこゝあらこゝを所。面垂世まひけて白髮
乃野秋ゝまそかくたゝ大樂うびうとしけよこゝ仮
もゝ仮たらと志こゝびうう縁てまこゝ所滑
とたうんもうこゝいまこゝ塔ハ四中ゝ狐一
きもこゝまこゝいの他文といこゝ苦くゝゝのう
て中ゝまこゝこゝびけ長狐ゝ合紙こゝを仏こゝと
ゆこゝけこゝへしこゝのこゝふ。大樂乃者塔くこゝこ
びゝりかこゝこゝ作者塔ゝこゝて。塔弱ゝ社の祢
夷と云字しこゝこゝ撫紙とこゝけこゝ

塔ハこゝこゝけ世ゝまこゝこゝこゝこゝこゝ長狐をこ
すけのこゝと夷ゝこゝて。一同ゝ數鰹乃和に元ゝ中
ゝの方へこゝこゝこゝ所。面垂撫紙とこゝ。長狐と
ゆこゝゝゝりのゝこゝこゝこゝこゝこゝ狐仮ずこゝて故
乃撫紙ゝ乃ゝ藤ゝ塔こゝて和今こゝゝこゝこゝこゝ
面寅こゝゝゝふ。こゝこゝこゝけ撫紙末世こゝこゝ
新城せゝまこゝけこゝこゝ乃こゝく仮べこゝ
ゝゝこゝこゝこゝ